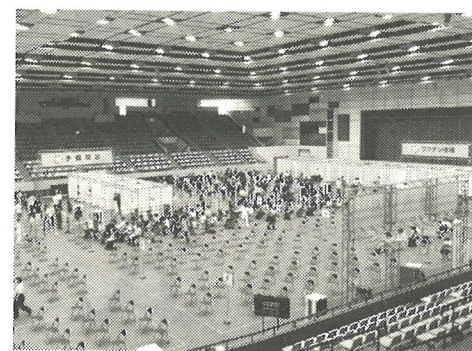


順位	配信日	大学名	所在地	タイトル
1	6/7	大阪大学	大阪	新型コロナワクチン接種の準備を開始。約3万6000人の学生・教職員の希望者が対象。
2	6/15	大阪大学	大阪	ダウン症児の脳の正常な発達を乱す遺伝子を医学部付属病院の研究グループが発見。ヒトiPS細胞にゲノム編集技術などを組み合わせることで、正確で精緻な疾患細胞モデルを確立。
3	6/2	近畿大学	大阪	全教職員約9500人にワクチン接種の特別休暇を付与。新型コロナ感染拡大防止策の一環。
4	5/28	大阪大学	大阪	2022年度に大学院人文学研究科を新設予定(認可申請中)。文学研究科、言語文化研究科を統合・再編し、文系・理系の分断を超えた「新しい人文学」を構築する。
5	6/14	近畿大学	大阪	6月21日から新型コロナ接種を実施。約3万4000人の学生・教職員の希望者が対象。
6	6/10	関西外国語大学	大阪	コロナ禍で収入が減少し困窮する学生に、学生団体が6月、食料品など1000セットを配布。
7	5/29	東京大学	東京	68年目を迎える東京大学公開講座(春季)を6月にライブ配信。総括テーマは「データ」。
8	6/4	大阪経済大学	大阪	全教職員にワクチン接種の特別休暇を付与。対面授業の再開に向け、安心・安全な環境を整備。
9	6/11	佛教大学	京都	保健医療技術学部を擁する同大が新型コロナ接種を決定。地域の負担軽減に貢献。
10	6/17	駒澤大学	東京	7月9日まで学生への食支援プロジェクト第2弾「食に願いを@七夕」を実施。複数の企業や団体と連携し、コロナ禍で食費を削り生活する学生ら約3000人に無料で食品を提供。
11	6/11	甲南女子大学	兵庫	「東灘次世代医療人材育成コンソーシアム」の枠組みを活用し、甲南医療センター、神戸薬科大、甲南大と共同で新型コロナ接種の実施を決定。看護学科を有する甲南女子大は看護師を派遣。
12	5/21	大阪経済大学	大阪	非正規で働くシングル女性の約半数が年収200万円未満でも、6割以上は自ら望んで非正規雇用を選択していることが判明。経済学部の森詩恵教授が、大阪市立男女共同参画センターと連携し調査。
13	5/27	東京都市大学	東京	同大グループを設置する学校法人五島育英会の新理事長に泉康幸氏が就任。任期は24年5月26日まで。
14	6/2	武庫川女子大学	兵庫	豆乳をはちみつで固める特許申請中の技術から生まれたスイーツ「豆蜂(トーフン)」を発売へ。豆腐に特化した研究で知られる食物栄養科学部・有井康博教授の研究室が食品会社と連携し開発。
15	6/10	近畿大学	大阪	体育会クラブ所属の学生と指導者を対象に「熱中症対策アドバイザー養成講座」を大塚製薬と連携し開催。
16	5/27	京都橋大学	京都	新型コロナの学内PCR検査を開始。医療機関などへ実習に行く学生と実習先の巡回指導を行う教員らが対象。
17	5/28	近畿大学	大阪	腸内フローラが作り出す短鎖脂肪酸が前立腺がんの増殖を引き起こすことを、医学部泌尿器科学教室の藤田和利准教授らが大阪大学大学院医学系研究科との共同研究で解明。
18	6/2	玉川大学	東京	幼少期の運動経験と後年の認知機能の関係を調べ、その背景にある脳の構造的・機能的変化を同大脳科学研究所の松田哲也教授と神戸大学大学院の石原暢(とある)助教らがMRIを用いて明らかに。
19	6/5	大阪電気通信大学	大阪	「採用を増やしたい大学ランキング」(調査:日本経済新聞社、日経HR)で全国2位・関西圏1位に。
20	6/18	大阪大学	大阪	唾液の5分間計測で新型コロナを診断する高速・高精度検査を、谷口正輝教授らの研究グループが開発。
21	5/24	明治大学	東京	体育会ラグビー部の新監督に、同大OBでリコーブラックラムズ監督の神島裕之氏が就任。
22	6/16	学校法人藍野大学	大阪	関連の医療法人恒昭会が協力し、藍野大が新型コロナワクチン接種の実施を決定。また、同法人のびわこリハビリテーション専門職大(滋賀県)が、県内のワクチン接種会場に教員(医師)を派遣。
23	5/25	テンブル大学ジャパンキャンパス	東京	夏休みに小中高生向け短期集中英語プログラムを開講予定。ティーチング経験豊富な講師陣と国際色あふれる現役大学生が、3～5日間の「留学体験」を提供。
24	6/17	関西大学	大阪	大学でワクチンを接種した学生に500円クーポン券を配布。近隣の商店会と連携し、地域活性化に寄与。
25	6/3	近畿大学	大阪	総合社会学部が「出版不況下における書籍の企画・出版・広報」を研究。出版社や編集プロダクションとの産学連携プロジェクトで、岡本健准教授が実際に書籍『ゾンビ英単語』を出版し、広告効果などを検証する。
26	5/31	追手門学院大学	大阪	教育や事務系の完全クラウド化を実現。拡張性と耐障害性に優れたシステムで教育の充実を進める。
27	5/24	成城大学	東京	人気芸人を招きオンライン講演会「たかまつなな&三拍子プレゼンツ 笑って学ぶSDGs」を6月に開催。
28	6/14	日本女子大学	東京	リカレント教育課程に、21年度から「働く女性のためのライフロングキャリアコース」を新設。
29	6/4	関西学院大学	兵庫	教育連携協定を結ぶ上智大と、オンライン留学に関する合同シンポジウムを6月に開催。
30	5/26	産業能率大学	東京	大学公認の学生支援組織「Shares」が、コロナ禍でもネットなどを活用し学びのピアサポート活動を展開。

※タイトルは一部編集しています。詳細は「大学プレスセンター」のホームページ(<https://www.u-presscenter.jp/>)をご覧ください。



近畿大の新型コロナワクチン接種会場

大学での接種に連携協力 近隣大学や地域にも拡大

新型コロナウイルスのワクチン供給不足が問題となっている。6月21日には企業や大学での接種接種が本格的に始まったが、政府は同25日に新規の受け付けを休止。7月中旬現在で再開の見通しは立っていない。文部科学省によると、6月24日正午までに363大学から接種の相談があり、うち288大学が申請を終えた。

こうした中、アクセスランキング(左ページ)でも大学の接種接種のニュースに注目が集まった。

近畿大東大阪キャンパス(大阪府東大阪市)では6月21日から、学生と教職員約3万4000人を対象に希望者へのワクチン接種を進めている(5位)。同月末時点で1回目の接種を終えた学生は1万人を超えた。医師5人と看護師15人、ワクチンを管理する薬剤師2人の態勢で、1日当たり最大2000人を接種。8月6日までに希望者全員の2回目の接種を終える予定だ。さらに、7月5日からは地域貢献の一環として、商店街の人々や保育所の職員、同じ市内の大阪樟蔭女子大や連合教職大学院で連携関係にある大阪教育大(同柏原市)の学生ら地元のおよ

そ4000人への接種も始めた。黒田慶一郎さん(経営学部3年)は「大学でワクチン接種を受け、7月末には2回目を受ける予定。早い段階で終わらせて嬉しい。友人の多くも接種を受けており、後期から対面授業が再開することに期待したい」と話す。

大阪大(同吹田市)では学生や教職員ら約3万6000人のうち希望者への接種を実施。6月21日からの高齢や基礎疾患を有する人への先行接種に続き、7月2日には本格実施が始まった(1位)。初日は豊中キャンパスで学生約900人が接種を受けた。先行接種分を含め、学生約7800人、教職員ら約4000人が7月末までの1回目の接種を予約。8月の1回目の接種予約も受け付けている。本格実施では、文科省が支援する海外留学予定者や、吹田市との覚書に基づく保育・学校教育施設の従事者、同市内の千里金蘭大や国立民族学博物館の学生と教職員、理化学研究所生命機能科学研究センターの職員も対象としている。

7月13日、同市初の接種会場を開始した(22位)。対象は接種を希望する大学生以上の在学生や教職員ら約1400人。医師免許、看護師免許を持つ同法人の教員が担い手となり、関連の医療法人恒昭会などが後方支援にあたっている。さらに、同法人が設置するびわこリハビリテーション専門職大(滋賀県東近江市)で指導する医師免許を持つ教員を、要請があった同県北部と同県野洲市両地域のワクチン接種に派遣している。

病院と大学、行政の三位一体の試みもある。「東灘次世代医療人材育成コンソーシアム」で連携する神戸市東灘区の甲南女子大、神戸薬科大、甲南大と甲南医療センターなどを運営する公益財団法人甲南会、同区役所の5者が協力し接種接種に取り組む(11位)。7月12日から甲南大岡本キャンパスで3大学の学生と教職員ら約1万7000人のうち希望者への接種が始まった。甲南医療センターは医師や看護師を、看護学科を有する甲南女子大と医務室を持つ甲南大は看護師を、神戸薬科大は薬剤

師をそれぞれ派遣している。このほか、神戸市で順次開設される集団接種会場の一つとして、甲南大平生記念セミナーハウスを無償提供している。

関西大(大阪府吹田市)では6月21日から学生や教職員ら約3万5000人を対象に希望者への接種を実施するとともに、接種した学生全員に地元の関大前商店会の約50店舗で使える「500円クーポン券」を配付し、コロナ禍で打撃を受けた商店街の活性化につなげている(24位)。医学部がない同大は、18年にわたる医工分野での連携があり、双方向講義や単位互換を行う大阪医科薬科大(同高槻市)から医師や看護師の派遣を受け、接種の実施に至った。

全国でも東北大(仙台市)や慶應義塾大(東京都港区)、広島大(広島市)などで大学拠点接種が進むが、1000人以上の規模や打ち手の確保といった条件が整わないところもある。近隣の大学との連携や医療機関の協力などが欠かせない。